

光市医師会報

No 170

I am a Doctor



*OBSTETRICS and
GYNAECOLOGY*

昭和61年12月発行
光市医師会

おめでた

丸岩先生 光市教育委員会選奨
(学校医20年の功績をたたえて)

平岡先生 労働大臣功績賞
(S61年度全国地域事業所、労働衛生水準向上の功績が認められて)

大野先生 山口県選奨
(衛生事業に対する功績をたたえて)

11: 周南三市医師会役員協議会について
(以上会長より)

12: 心臓検診及び校医の問題について
(福本理事より)

S61年11月度月例会及び 税務研修会

11月25日 於医師会館

1: 税務研修会「税務のあれこれ」

講師: 光税務署 貝原署長他3人

2: 月例会

医師会月間行事

S61年11月度 理事会

11月11日 於医師会館

- 1: 第104回山口県医師会代議員会報告
(会長より)
- 2: 研修セミナーのバス運行の件
- 3: 光市保健センターとの懇談会の件
(以上福本理事より)
- 4: 忘年会の件
- 5: 体育大会収支決算報告
- 6: 性教育について
- 7: 新日鉄診療所、渡辺幹先生退会の件
- 8: 日赤より献血時立会い医の依頼について
- 9: ビデオ購入費の件
- 10: 医師会史編纂事業費について

- (1) ○丸岩・平岡・大野先生受賞
 - 県医師会代議員会報告 (県医師会報1113号参照)
 - 県医師会100周年記念行事一覧
 - 忘年会 12月16日(火)
6:30PM~ (於光総合結婚式場)
- (2) 保健センターとの懇談会報告
- (3) 郡市医事紛争担当理事協議会の件
周南地区産業保険連絡協議会の件
- (4) その他
 - 老人保健連絡協議会の件
 - 保健事業第2次5ヶ年計画
 - 生涯教育年間申告についてのお願い
 - 人事移動: 渡辺幹先生 退会
金福柱先生 入会
 - 下松市・無資格医除名の件
 - 社保レセプト提出日 12月は5日
1月は7日

その他の行事

☆第6回卒業（生涯）研修セミナー

11月16日

於山口県医師会講堂



☆光市医師会及び光市担当課との協議会

11月18日 於光市保健センター

- 1：予防接種に関する問題
- 2：1才半・3才時健診の問題点について
- 3：健康診査、癌検診のあり方について
- 4：健康教育プログラムについて

☆医事紛争対策講習会

11月19日 於下松市民館

彼岸への告示録(その1)

(知名人の場合) 大野宗二

知人が死亡して告別式に参列すると、大抵の人は、お年はいくつでなくなられましたか、御病気はなんですか、と聞くのが普通である。80才とか90才以上となれば御長命ですね、40才から60才だと、まだ御若いのにと、御くやみの言葉をのべるだろう。

人それぞれ、趣味を持ち亦くせと言うものを持っている。私の場合人に語る程の人生を楽しむ程の趣味を何一つ持ち合わせない無粋な男であるが、一つのくせ、がある

やたらに新聞記事とか、雑誌類の記事を多方面にわたって切りぬいて、べたべた張りつけるくせ、である。これが相当量蓄積してかなりの厚さになっておる、然しこれを有効に利用したことがないのがみそ、であり全く無駄な労力の様にも思える。ただ、年々定例的に決った行事がある、例えば、老人週間とか、国民医療の動向とか、人口動態統計とか、発表されるのであるが、必ずその発表に対して論説とか、現状、将来の見通し、分析とかの論評が、マスコミにより、発表されるのが通例である。その際1年前とか2年前にはどんな意見、論評が述べられていたかを、振返って読み直し、比較してみる事があるくらいのものである感じとしては、年々才々、特に漸進変った論評はなく、老人化社会の到来の原則とこれ等の対応の必要と、医療費高騰の抑制策位のものである。いま日本医師会、県医師会の反対している老人保健法案が国会で審議されておるが、中間施設なるものの極めて不明瞭な改正と、老人の負担額が2.5倍に増加される点に懸念があるものの恐らく国会を通過するであろうが、将来どんな結果が出てくるかは予測はつかない。ただこの老人保健法改正が、厚生省の画いている現状保険制度の大改悪の突破口とならなければ幸いである。話を表題の彼岸への告示録、に戻そう、扱った素材が極めて限られた小範囲のもので、特に強調する意味はないであろう。扱った件数は昨年10月から本年7月までの新聞に告知された。1000件についてである(主として朝日、中国新聞)本年6月厚生省の発表した昭和60年人口動態統計である。新聞の第一面

に報じたタイトルによれば、心臓病増え死因二位に、脳卒中を抜く（食生活の洋風化反映）である。数字的には心臓病死亡が昭和59年には136,162人で人口10万当りの死亡率は1,139が昭和60年には141,017人で率にして1,173である。脳卒中死は昭和59年が140,096人で率にして112.2である。昭和60年になると心臓病死は141,017人、率にして117.3、脳卒中死は134,969人、率にして112.2となり確かに心臓病死が脳卒中より増加して居る。ところで新聞紙上に告示された知名人の死因は如何なものであろうか、年齢は40才台より90才以上までとして42才が最低で最高は102才である。40才より49才までが17%、50~59才までが10.1%、60才~69才が18.3%、70~79才が17.5%、80~89才が32.8%、90才以上が9.7%である。職業別にみると、会社、団体等の役員が27.7%、大学等教授が21%、芸術等分野が11.6%、となっておる。死因別疾病分類は、先般県医師会地域医療計画委員会のアンケート調査による疾病分類によることとしてみる。循環系疾患が41.5%、新生物系疾病が19.4%、呼吸系疾患が15.1%、消化系疾患が8.9%であった。今回は大分類的分析にとどめておくが、次回は小分類的分析を試みてみよう。まして心臓病と脳卒中死の関係はどうであろうか？

うちかたの先生

光市立病院 五嶋 武先生



白衣の裾をひるがえし、足音、鼻息共に荒々しく、詰所に入ってくるなり「しっこは出ちよるんか!!」と大声。そこですぐに答がかえればよし。どの患者の事を言っているのかピンとこず、ポカンと先生の顔を見てみようものなら途端にごきげんがななめどころか、まさかさまに下ってしまう。NSにとってこわい、話にくい先生。これが五嶋先生に対して大部分のNSが持っている印象です。なかには、五嶋先生への報告、指示受けとなると、緊張してしまい、言いたい事の半分も言えずに戻ってくる気の毒なNSもいる。怒鳴られるのはNSだけではない。検査中ともなると、X線技師はもちろん、濃川副院長、検査を受けてい

る患者自身にまでその大声は飛んでくる。でも怒鳴ったその後で、今のはちょっと言い過ぎたかな?と1人ひそかに反省したりする一面もあるのです。「わしは女にもてん」と日頃、口ぐせの様に言っておられる先生。イライラする心をグット押えて大きく構えてみては?女性ファンが急増するかも……しないかもネ。

ところで、先生の趣味といえば、誰もが知っている釣り。風を切って走る白いフェアレディZ。車から降りた先生の後ろ姿は一見「あら、すてき」でも良く見ると、ジャージの下にしっかり着込んだ防寒着。車中にはクーラーボックス、釣り道具。いっしょにドライブでも……と思って出した足が思わず後ずさり。現在、11月末に行なわれる院内忘年会に向けての釣り合戦がたけなわ。濃川副院長とは良きライバルで、お互いに牽制し合ったり、けなし合ったり。はたで見ていて思わず笑ってしまいます。でもさすがに先生、気になる患者さんがいる時には、釣りの帰りでも、必ず病院へ寄って、状態を見て帰られます。そしてこの短い時間が、1日のうちで唯一、先生とNSがゆっくり話をして、先生の思わぬ一面を発見したりする貴重な時間だと思うのです。これからますます寒くなりますが、渋茶でも飲みながらバカ話に花を咲かせましょう。

先生の紹介という事で、見たまま、ありのままをかざらずに書けば良いと言われ、日頃、五嶋先生に対して感じている事をそのまま文章にしてみました。さて、次は?



Freshman



金 福 柱先生

市立病院 外科

生年月日 昭和27年3月23日

現住所 光市虹ヶ丘2丁目16-11

TEL 0833-72-5843

出身校 山口大学医学部 S52卒

趣味 魚釣り、ジャズ

家族 妻、長男(小2)長女(小1)

今年11月より光市立病院に勤務する事になりました。

S55年1月より1年間勤務した事もあり古巣に帰ってきた様な心境です。現在外科は濃川先生と鳥枝先生の2先輩がおられ、力を合わせ医療内容の充実をはかりたいと思います。宜しく御願います。

趣味は魚釣りで光周辺には好釣場があり楽しみにしています。



あ と が き

寒くなりました、鍋物のおいしい季節です。如何お過ごしですか？

世の中寒い話ばかりですが鍋物の様なあたたかい話はないものでしょうか。

今月の“うちかたの先生”は五嶋先生が血祭りにあげられ、まるで、うちのナースが私の事を書いているみたいでした、仲間が出来て安心しました。

先生方「〇〇元気で留守がよい」は誰にでもあてはまる今年の流行語です。ために自分の名前を入れてみて下さい。

なお、今月号より大野先生が毎月でなく時々という約束で“彼岸への告示録”と題して4～5回の連載を引受けて下さいました。膨大な資料の中から、我々にそのエキスのみをいただけるのですから、どうぞお楽しみに……………。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社